第４８回市民自治推進委員会　ぬくもり部会会議録

（敬称略）

開 催 日 時	令和８年７月２３日（木）１８時３０分～２０時００分
開 催 場 所	登別市役所　２階　第１委員会室
出席者	（部 会 長）田渕　純勝 （副部会長）大川　和徳 （部 会 員）今　順子、佐藤　画美、及川　奈緒 （庁内委員）笠井　康之、菊地　圭一 （事 務 局）大内　拓海、下國　陽、桑原　ゆきの
議題	（１）部会長及び副部会長の選任について （２）こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて

【部会長及び副部会長の選任について】

新体制について、部会長に田渕　純勝氏、副部会長に大川　和徳氏を部会員の互選により選出した。

【こどもファースト・外国人住民との共生社会の取り組みについて】

（事務局）

昨年実施した「登別市市民自治推進委員会に関するアンケート」の結果、市民自治推進委員会で協議したい６つのテーマの提案があり、昨年１２月１８日に開催された部会長・副部会長会議の中で、「こどもファーストの取り組みについて」及び「外国人住民との共生社会の取り組みについて」の２つのテーマについて、各部会で主体的に取り組んでいくために協議することとなった。

次に、協議の進め方については、こどもファースト・外国人住民との共生社会の視点で住みよいまちづくりを目指すうえで課題となる点を各部会の分野に限らず幅広に抽出して、集まった課題を再度各部会に展開し、その課題を解決するために各部会でどのような取り組みができるかという流れで進めていきたいと考える。

（部会長）

まずは「こどもファーストの取り組みについて」、部会員がそれぞれ普段感じていることや考えていることを教えてほしい。

（部会員）

国でも子どもに重点を置いた社会づくりを推奨しているという印象があるが、それに伴って登別市でもこどもファーストという目標を掲げてもらっているところである。しかし実際のところ、登別市内の出生率は昨年度で１４４名程だったと記憶しており、出生率が年々下がっていることも課題の１つだと思う。色々な市町村がこどもファーストを掲げ、出生率を上げるための取り組みや環境づくりを行っていると思うが、改めて若い世代が登別市で子どもを産むと決めたときに市からどのようなサポートをしてもらえるのかであったり、制度や取り組みなどの肝心な情報が行き渡っていないという話も聞いている。全員が市のホームページをチェックしているわけではないため、周知が弱い部分があると思う。

（部会員）

小学生・中学生・高校生の子どもが１人ずついる。市長がこどもファーストを掲げてしばらく経つが、今日までこどもファーストを特に感じたことがないという印象である。時代だからかもしれないが、子どもが公園に行くこともあまりなく、家でゲームばかりしているため、放課後や休日、特に夏休みなどの長期休暇の間の居場所づくりを地域や大人がどのように行っていくかが重要になると思う。

（副部会長）

こどもファーストを実現させていくために、まず子どもをどうやって育てるのかを考える上での大前提として、親にお金があるのか、親が健常なのかどうか、健全に暮らせるのかなどの様々な問題がある端々で最も影響を受けるところに子どもたちがいるという捉え方が重要であると考えている。居場所を作るにしても、子どもたちの状況はそれぞれであるため、経済面で支援が必要な家庭とそうではない家庭、学習面においても家庭内で勉強がしやすい家庭とそうではない家庭、福祉面においても生きやすい家庭やそうではない家庭など、多様な環境にいる子どもたちをどのように捉えていくかが重要だと思う。

（部会長）

私が生まれた時代は戦前だった。そこからずっと登別市に住んでいて、まだ市ではなく町だった時代から、人口が６万人を超えそうだった時代なども含めて長く市を見てきたが、昔と今では子どもたちの遊び方や過ごしている環境がガラッと変わっている印象を受けた。私が子どもの頃は外で集まって、皆で知恵を出し合って新しいゲームを一から考えて遊んでいたが、今の子どもたちはある

程度出来たものを与えられてそれで遊んでいる。中学生の孫がいるが、スマートフォンばかりしているので外で遊ぶように促すことも多い。人それぞれではあるが、居場所を作れたとしても、子どもたちの中では一定数その居場所に入りたがらない子もいると思う。課題となるその部分をどのように拾っていくかが重要になると考える。

（部会員）
　私は市内の小学校全て回って授業を行っているため、子どもたちから色々な話が聞ける。今まではこちらの話を聞いてもらっていたが、今度はこちらから子どもたちが困っていることや居場所があるのかどうか、どんなことがしたいかを聞くような授業にするのもいいと思った。

（部会長）
　どの学年に授業を行っているのか。

（部会員）
　３年生から５年生までである。

（部会長）
　ちょうど意識が芽生え、色々なことに興味を示す時期だと思うので、子どもたちからの話を聞く授業にするのはとてもいい案だと思う。是非前向きに検討してほしい。

（部会員）
　承知した。

（部会長）
　それでは、「外国人住民との共生社会の取り組みについて」話していこうと思うが、普段から外国人と接する機会があまりない人が多いと思う。私自身も近所のスーパーマーケットでインドネシア人の若い方が買い物に来ているのは目にするが、話す機会がない。

（部会員）
　どの地域も外国人が住民として生活している様子が見られているが、私自身が幼稚園を経営しており、様々な国籍の外国人が地域と共生しながら生活でき

るように、外国人をアルバイトに雇い、日々日本の文化の風習を伝えながら共生のお手伝いをしている。また、園でアルバイトをしている外国人を鷲別のお祭りに参加させてもらい、町内会の方々に丁寧に教えてもらいながら一緒にお祭りを盛り上げることが出来た。町内会や地域の方々との交流を通して「地域のことを知りたい」と興味を持った様子も見られ、「もっと地域の方と仲良くなりたい」と思えるきっかけ作りになれたと考えている。

しかし、どこの市町村でも外国人は自国の友人たちと一緒に行動していることが多いように思う。それでは一向に共生社会にはなっていかないため、地域のイベントや取り組みに参加してもらい、地域やルールを知ってもらうことが大切だと思う。特にゴミ捨てのルールは私自身もアルバイトの外国人に説明しているところではあるが、日本人と感覚が違うため、何が悪いのか分からずにルール違反の行動をしてしまい、周りから指摘を受けることも多いようだ。まずはそれぞれの国の価値観が違うことをお互いが理解していく必要があると感じた。

（部会長）
どのくらいの人数がいるのか。

（部会員）
今この場で正確な数字は分からないが、この間地域のお祭りに参加した学生が２００人程度いて、そのうちの約７割が外国人である。

（部会員）
買い物に行くと、よく５～６人でグループになっている外国人に会う。向こうはすごく不安な気持ちがあると思うので、私たちのほうから「こんにちは」と笑顔で声をかけると心がほぐれるのか笑顔を向けてくれることが多い。正直最初は怖いと思ったこともあったが、打ち解けたいなという気持ちのほうが強くなった。私たちのほうから声をかけていくことも重要だと思う。まずは簡単な挨拶から始められたらいいと思う。

（部会員）
私も買い物に行くと外国人をよく見かける。近くに住んでいそうな外国人もいて、子どもの登校のタイミングに外に出ると自転車に乗って通り過ぎていく外国人の集団を見る。すごく近くにいるのにどこで働いているのか、どこの国籍なのかが分からないので話しかけることも出来ない。地域のイベントなどに参加してくれたらもっとコミュニケーションが取れると思うので、もう少し外国

人と交流できる機会がほしい。市で日本語サロンの「のぼここ」をやっていると思うが、ああいうのがあるとすごく良い。何度か参加したことがあるが、どこで働いているとか、どこの国出身でこういう食べ物が美味しいとか、色々な話が聞けてすごく良い時間を過ごせた。そういうのが市内にあれば、同じ地域に暮らす者としてお互いに理解し合えるのではないかと感じた。病院に行きたいけどどう手続きしたらいいか分からない人もいるだろうし、身内が事故に遭ったり亡くなったときなどは文化や宗教の違いですごく困ると思う。外国人が私たちに相談したいのは困ったときだと思うので、先に情報交換し合えたら、外国人の不安が少なくなるのではないかと感じた。

（部会長）
現在登別市に何人くらい外国人がいて、国籍別・男女別にどれくらいの割合になるのか、どこに住んでいるのか、どの地域に集中しているのか調べてほしい。

（事務局）
６月末時点の情報になるが、人口としては５６４人、世帯数としては５０５世帯。男女の割合は男性２７１人、女性２９３人となっている。一番多い国籍はミャンマーとインドネシアが１２７人で同率となっており、その次がベトナムで７９人、中国で６５人、韓国で４６人である。

（部会長）
中央町に何人いるなど、それぞれの住んでいる地域は分からないのか。

（事務局）
公表されていない情報となるため、数字を公表してもいいか担当部署に確認しておく。

（部会員）
主な勤務先は分からないのか。登別温泉のホテル関係で働いている人が何人いるのかとか。

（事務局）
そこまでは分かりかねる。もし地域別の人数が出ていて、登別温泉エリアの人数が多ければホテル関係の可能性はあると思うが、はっきりとは分からない。

（部会長）
分かる範囲で調べてもらいたい。

（部会員）
現在登別市に住んでいる外国人の中で、一番長く住んでいる人は何年くらい住んでいるのか。

（事務局）
それも分かりかねる。

（部会員）
年金の関係書類などを辿れば分かる気もするがどうなのか。

（事務局）
仮に分かったとしても、個人情報保護の観点からも公表できる情報か分からない部分がある。どこまで情報を出せるか確認する。

（副部会長）
登別市ではそうでもないが、転勤族が多い市町村では後から転入してきた人が町内会に加入せず地域のルールが崩壊しているという話をよく聞く。北海道は特に「集団やコミュニティは先住の民が作るが、壊すのは後から来る多数派」だと言われている。外国人が何人かという問題よりも、町内会とか地域を作っている住民の規模よりも流入してきた外国人のほうが多いエリアはこの問題がすごく多い。しかし、日本人しかいないエリアにたった１人の外国人が来たら恐らく上手くいくと思う。しかしこれは外国人に限った話ではなく、アパートやマンションだらけのエリアの町内会は既にこの問題が発生していると思う。言葉が通じるか通じないかというよりも、定住をしていない人が出入りする町は、どうすればその人たちにとって住みやすいかを考えていくときに、外国人であっても、日本語が話せる転勤族の人であっても住みやすくなるように考えるのが重要だと思う。すぐいなくなってしまう人でも覚えられるような分かりやすいルール作りが出来ると、結果外国人の人たちにも優しいルールになるのかなと思う。結果的にそれが今いる人たちにとっても新しく来る人たちに翻弄されないまちづくりになるのではないかと感じる。

（部会員）
しかし民族性もあるため、日本のルールが中々受け入れられない人たちもいるように思う。

（副部会長）
だが、町内会だけでいったら入ってない日本人のほうが多いと思う。外国人にルールを守ってもらえるもらえないの国民性に辿り着く前に、そもそものルールの中に入ってこない日本人もいるという現状がある。全てを外国人にフォーカスするほどではないのかもしれない。アパートやマンションに住んでいる日本人が加入した上で協力してくれる町内会づくりは外国人にも通用するような気がする。

（部会員）
日本はごみの始末が綺麗だとよく言われる。外国と比べると歩道や車道にごみが落ちていないという話もよく聞く。日本の綺麗さに外国人はすごく驚くらしいので、日本人の綺麗好きな気質に入ってこられない人もいるのではないかと思う。だからポイ捨てをする外国人が一定数いるのかもしれない。

（部会長）
町内会の加入率はどんどん下がっている。80%を超える時期もあったが、今では70%を切る勢いである。外国人に町内会へ加入してもらうのはもちろんだが、「じゃあ日本人はどうなんだ」となる。アパートやマンションの町内会加入率はゼロに近い。町内会はある意味一番身近な共生社会だと思うが、そんな状況で共生社会を作れるかと言われたら難しいと思う。私の町内会は、アパートやマンションに住んでいる人にも交渉して加入してもらっているため、加入率は100%となっている。今はアパートやマンションが増えてきていて、そのような建物が多いエリアは気の毒になるぐらい加入率がグッと下がる。そのエリアに外国人が入ったとき、共生社会はどうなるんだと言われたら他のエリアよりも難しくなる。

（副部会長）
考える意味は当然あると思うが、この議論は難しい部分があると思う。例えば登別温泉の駅の周りは多言語で表示するのが当たり前で、日本語だけ出して「読めないほうが悪い」というのは通用しない。しかし、今では観光客の国籍が増えすぎているため、どこまで配慮をするのかという課題がある。そもそも自分たち

日本人のルールを分からせていくというのに無理があるのかもしれない。しかし、元々住んでいる日本人からしたら新しく来た外国人たちに自分たちの慣習が変えられてしまうような地域づくりというのは受け入れがたい。ただどうしてもそうしなければならない状況になってしまったときに、１００：０ではなく、お互いに譲り合うという選択肢について考えていく必要がある。怖さはあるが、この問題を乗り越えていくことはとても重要だと思う。

（部会員）
個人的には、外国人との共生はかなり進んできていると感じている。実際に外国人の人たちは日本で働くんだという目的意識をしっかりと持っている人が多いため、日本に順応していこうという気持ちや郷に従っていこうという心構えの人が多い。学びたい気持ちが強い人のほうが多いのではないかと思う。現に、お誘いいただいて学生たちでボランティアに行かせてもらったときも「すごくためになった」「行ってよかった」と皆笑顔でたくさんのことを学んで帰ってきた様子で、これをきっかけに自分たちでまた新たなボランティアに行く学生も増えている。

（庁内委員）
外国人との共生はお互いに分からないというところが一番怖い部分なんだと思うので、お互いをいかに理解していくのかが重要になる。行政としての部分から考えると、市から郵送する書類は全て日本語表記であるため、そこも難しいと感じてしまう要因の１つなのかもしれない。先ほども話に出たが、色々な国籍の方がいるため全ての言語に対応することが難しく、市のホームページや窓口でも英語・中国語・韓国語などは対応しているが、インドネシアなどには対応できていない。簡単な日本語なら理解できる外国人が多いことから、先進的な市町村は多様な外国語よりも簡単な日本語のパンフレットを作成してそれを見せて理解してもらうという工夫も行っている。AI も発達しているため、それらも活用してお互いに理解できるような仕組みがあればいいのかなと思う。

（部会長）
意見の整理は事務局にお願いすることとしたい。次は、今日の意見を元に部会長・副部会長会議を行うという認識でよいか。

（事務局）
事務局でまとめ今後の正副部会長会議で本日の内容を紹介する。また、正副部会

長会議で出た内容は各部会に共有する。